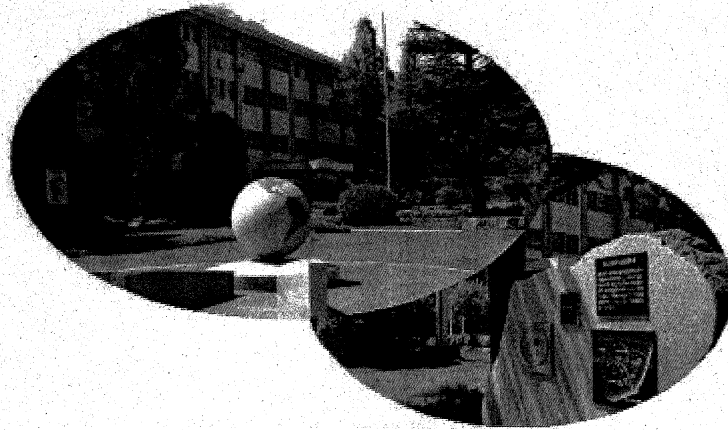


令和5年度

年間学習計画
【シラバス】



食品サイエンス科3年

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	国語	科目	現代文 A	単位数	3単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	改訂版 新編 現代文A (第一学習社)		副教材等	実践文字力トリプルブック (尚文出版) 最新国語便覧 (浜島書店) 国語必携ライトパフォーマンス演習 (尚文出版)	

1 学習の目標

- (1) 漢字力等、国語の基礎学力の向上を図ります。
- (2) 社会生活を送るのに必要な語彙力を向上させ、コミュニケーション能力を高めます。
- (3) 思考力・想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、社会への関心を深めます。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 随筆「なぜ『コロンブスの卵』を描くのか」	・先入観や固定観念を見直し、視点や価値の多様性に気づき、視野を広げる。
	5	2 小説「デューク」	・登場人物の心の機微を想像し、小説を読む楽しさを知る。
	6	3 評論「数え方で磨く日本語」	・言葉と文化の関わりを学び、我が国の言語文化への理解を深める。
	7	4 問題演習(ライトパフォーマンス演習)	・漢字・語彙力を高める。 ※教科書の教材と並行して定期的に学習する。2, 3学期も同様。
第2学期	9	5 評論「花女房」	・日本の民話とグリム童話の対比から、文化や価値観の相違を読み取りグローバルな視点を養う。
	10	6 小説「山月記」	・近代小説を通して現代にも通用する人生や人間についての普遍的な考え方を捉え、自己の問題として考える。
	11	7 随筆「出島のチューリップ」	・長崎を舞台にした筆者の回想から、郷土の歴史への関心を高め、郷土愛を再認識する。
	12	8 言語活動「短歌と俳句」 9 農高百首 10 問題演習(ライトパフォーマンス演習)	・著名な短歌・俳句に触れ、言葉に対する感受性と表現力を養う。カルタ大会の準備を通して、クラスメートとの親睦を深める。
第3学期	1	11 評論「クマを変えてしまう人間」	・自然を見つめる目を養い、自然との関わり方や人間の都合で自然環境を変えてしまうことの危険性に気づく。
	2	12 問題演習(ライトパフォーマンス演習)	
	3		
観点別評価法			・読解力・思考力・言葉の知識が身についているかを定期考査や文字力小テストにより評価します。 ・教科学習に対して真摯に取り組み、国語力の向上に努める態度が身についているかを、提出物の状況から評価します。 ・当該学年にふさわしい表現能力・技術が身についているかを、短歌及び意見文課題等から評価します。

3 担当者からのメッセージ

- 1 授業には、必ず教科書・ノート・国語便覧を用意し、必要に応じてタブレット端末を準備してください。
- 2 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むことが大切です。
- 3 授業整理プリントは、「まず自分で解いてみること、書いてみること」が重要です。
- 4 小テスト・課題は、指示された方法で取り組み、期限を守って提出してください。
- 5 タブレット端末を利用して、言葉や社会的背景について調べ、学習効果を上げてください。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第 3 学年	
教科書	現代の世界史 (山川出版社)		副教材等	なし	

1 学習の目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	第Ⅱ部 現代世界と日本	*第一次世界大戦前夜から第二次世界大戦までを概観します。
	5	第7章 二つの世界大戦	(1) ヨーロッパの国際関係を中心に第一次世界大戦が起きた背景や戦争中の社会の変化
	6	①第一次世界大戦とロシア革命	(2) 第一次世界大戦によってもたらされた影響と、大戦後の国際秩序の問題点
	7	②ヴェルサイユ体制と欧米諸国	(3) 第一次世界大戦後のアジアの民族運動の高揚
	9	③民族主義の新展開	(4) ファシズム台頭の背景と展開
第2学期	10	④世界恐慌とファシズム	を中心に理解します。
	11	⑤第二次世界大戦	
	12	⑤第二次世界大戦	
第3学期	1	⑤第二次世界大戦	*戦後の東西関係、アジア・アフリカ諸民族の独立、2陣営の変化を概観します。
	2	第8章 冷戦の時代	(1) 冷戦構造が形成されていった情勢を把握させ、アジア・アフリカ諸国の台頭や米ソの動揺によって冷戦構造が変化したこと
	3	①冷戦の形成と第三世界の登場	を中心に理解します。
観点別評価法		1. 知識・技能(70%)…定期考査の基本問題、小テストなど。 2. 思考・判断・表現(10%)…定期考査の応用問題など。 3. 主体的に学習に取り組む態度(20%)…授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況など	

3 担当者からのメッセージ

- 1 歴史は過去と現代の対話です。現在、未来を理解し考えるために歴史学習は大切です。
- 2 歴史は因果関係 (原因と結果の関係) より成り立っています。だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、したのか、それがどのような結果、影響をおよぼしたのかを考え、理解するようにしてください。
- 3 授業をうける前に教科書に必ず一度目を通しておきましょう。
- 4 なぜ? どうして? の問題意識をもって主体的に授業をうけましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第 3 学年	
教科書	最新 数学 I (数研出版)		副教材等	パラレルノート数学 I+A (数研出版) 教師自作プリント	

1. 学習の目標

- (1) 進学・就職試験に対応できる数学の能力を養う。
- (2) 割合、食塩水の濃度、図形、速さ・道のり・時間、仕事算の問題を解けるようにする。
- (3) 方程式、不等式、2次関数、三角比と図形などについて学び、実際に適用できる能力を習得する。

2. 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	・数の計算、式の計算	進学・就職試験に向けた演習を行う。 ・数や式の計算、多項式の加法、減法、乗法、展開・因数分解、無理数の計算などを学ぶ。 ・方程式、連立方程式、不等式の解法を学ぶ。 ・割合、濃度、速度の問題の解法を学ぶ。
	5	・展開、因数分解	
	6	・方程式、不等式	
	7	・割合、濃度、速さなど	
第2学期	9	・相似な図形、面積、体積 ・仕事算	進学・就職試験に向けた演習を行う。 ・相似な図形の面積比・体積比について学ぶ。 ・球の表面積や体積を学ぶ。 ・仕事算の解法を学ぶ。 ・1次関数(直線)、2次関数(放物線)について学ぶ。 ・三角比の値、三角比の相互関係を学ぶ。 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積を学ぶ。
	10	・1次関数、2次関数	
	11		
	12	・三角比	
第3学期	1	・規則的な数の並び ・指数法則を利用した計算 ・数学のいろいろな問題演習	規則的な数の並びについて、第n項や和の求め方を学ぶ。 ・指数法則を利用して、大きな数の計算方法を学ぶ。 ・数学のいろいろな問題の解き方を学ぶ。
	2		
	3		
観点別学習状況の評価方法	A (十分満足できる)、B (おおむね満足できる)、C (努力を要する) の3段階で評価する。 1. 知識・技能 (40%)・・・定期考査の基本問題、小テストなどにより評価する。 2. 思考・判断・表現 (40%)・・・定期考査の標準・応用問題、発表などにより評価する。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (20%) ・・・授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況などにより評価する。		

3. 成績の算出方法

1. 各学期の成績は、観点別学習状況の評価をもとに算出する。
2. 学年成績は、各学期の成績をもとに算出する。

4. 担当者からのメッセージ

1. 授業には、必ず教科書・ノート・問題集を、必要に応じてタブレット端末を準備すること。
2. 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むこと。
3. 復習として、教科書の類題を自分で解いてみること。
4. ノート・問題集は、定期考査後に提出してもらうので、しっかり記入しておくこと。
5. 必要に応じて、タブレット端末を利用して、学習効果を上げる工夫をすること。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	科学と人間生活新訂版(実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解します。
- (2) 科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深めます。
- (3) 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養います。
- (4) 科学に対する興味・関心を高めます。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	2 物質の科学 2節 食品と衣料	食品の種類と三大栄養素について学習します。
	5		衣料にはどのような繊維が使われているかを学習します。
	6	3 生命の科学 2節 微生物とその利用	微生物の種類とその発見の歴史を学習します。
第2学期	7		微生物が食品や医療、水の浄化など人間生活に必要なものであり、生態系でも重要な役割をしていることを学習します。
	9	4 光や熱の科学 1節 光の性質とその利用	光の性質について学習します。
	10		光が日常生活の中でどのように利用されているかを学習します。
	11	5 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害	自然景観が地球の大規模なプレートの運動と大気や水の働きによってつくられていることを学習します。
第3学期	12		日本でおきる地震、火山活動、気象の各現象と、それに伴う様々な自然災害について学習します。
	1	6 これからの科学と人間生活	人間が生み出した科学と科学技術の基本と現状を見て、これからどのように進めて行けばよいかを考えます。
	2 3		
観点別評価法		ペーパーテストや小テストの内容、実験・観察への取り組む態度や技能、レポートの作成やグループでの話し合い、発表などを通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に評価する。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 日常の体験と専門用語を関連づけて覚えることが大切です。
- 2 諦めずに努力することが大切です。
- 3 授業で生じた疑問は積極的に質問してください。
- 4 ヒトも自然の一部であることを念頭に置いて学習に取り組んでください。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	最新高等保健体育 (大修館書店)		副教材等	最新高等保健ノート	

1 学習の目標

- (1) 心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解を深める。
- (2) 運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質を育てる。
- (3) 体力の向上を図る。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の約束事を確認する。 ・礼儀作法、規範意識、協調性を身につける。 ・集団の一員としての自覚を持つ。 ・体づくり運動をとおして、基礎体力、身体バランスを高める。 ・運動の楽しさを味わう。 ・能力に応じた技能を身につける。 ・チームにおける自分の役割を果たす。 ・審判法を身につけ、自分たちで試合ができるようになる。 ・自分の能力を理解し、それに応じた技、練習ができるようになる。
	5	選択 器械運動 柔道 ダンス	
	6	体づくり運動 選択 ソフトボール ラグビー	
第2学期	7	バレーボール バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に参加し、みんなで協力してやり遂げる責任感を身につけ、達成感を味わう。 ・礼儀作法を身につける。 ・安全面に留意して練習できるようになる。 ・審判法を身につける。 ・運動の楽しさを味わう。 ・能力に応じた技能を身につける。 ・チームにおける自分の役割を果たす。 ・審判法を身につけ、自分たちで試合ができるようになる。 ・自分の体力、能力に応じて目標を設定し、積極的に取り組む。
	9	選択 (1学期末種目継続)	
	10	選択 ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール バドミントン	
	11	ソフトテニス (種目は変更の場合あり)	
第3学期	1	選択 ソフトボー バスケットボール バレーボール バドミントン	(2学期に同じ)
観点別 評価法			<ul style="list-style-type: none"> ・積極的授業へ参加。 ・容儀面。 ・目標にあった練習と安全・健康管理。 ・授業ノート等の記入と自己評価。 ・運動スキル。

3 担当者からのメッセージ

- ・社会で大事な協調性、礼儀 (挨拶)、規範意識を身につけよう。
- ・集団の一員としての自覚を持ち、自己の責任を果たせる人間になろう。
- ・将来の自分のために、しっかり体力をつけよう。
- ・身体活動を通して、運動の楽しさ・爽快感を味わい、生涯にわたってスポーツにかかわろう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	外国語	科目	英語会話	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第 3 学年	
教科書	Hello there! English Conversation (東京書籍)		副教材等	コーパス 1800 3rd Edition (東京書籍)	

1 学習の目標

- (1) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
- (2) 英語を通じて、身近な話題について会話することができる。
- (3) 英語を通じて、言語の違いや文化の違いについて理解を深めることができる。

2 学習計画及び評価方法

学期	月		
第1学期	4	Unit 1 Introduction Lesson 1 Nice to Meet You Lesson 2 Hello, Friends!	○自己紹介、友達の紹介ができる ・きき返す、あいさつをする、意味を尋ねる、説明する ・許可を求める・与える、相手について尋ねる・答える、リストアップする
	5	Unit 2 My Interests Lesson 3 My Favorite Music	○好きなこと、興味のあることについて会話ができる
	6	Lesson 4 What Are You Crazy about?	・意見を言う、興味・関心を伝える、誘う・誘いを断る
	7	Unit 3 Food & Health Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	○料理について、作り方の説明ができる ・許可を求める・許可する/許可しない、説明する
	9	Lesson 6 Are You All Right? Unit 4 My Beautiful Country Lesson 7 Talking about Our Town	○体調について聞いたり、説明したりすることができる ・同情する、事情を理解する、助言する
第2学期	10	Lesson 8 Traditional Culture Unit 5 Future	○自分の住んでいる町について積極的に話すことができる ・(距離・方角、場所の特徴などを) 描写する
	11	Lesson 9 Equal Roles	○各国・地域の伝統文化について積極的に話すことができる ・予定を尋ねる・答える、習慣を尋ねる、説明する
	12		○自分の価値観をはっきりと表現することができる ・感想・感情を述べる
第3学期	1	Lesson 10 Helping Each Other	○推測した考えを表現したり、自分の主張をはっきりと述べたりすることができる ・推測する・主張する、描写する
	2		
	3		
観点別評価法			【知識・技能】 ・基本的な単語、文法、表現が定着しているか。 【思考・判断・表現】 ・基本的な単語、文法、表現を使って、適切なコミュニケーションができていくか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・提出物等がきちんと提出されているか。 ・コミュニケーションをとる適切な態度等、英語に対する関心をもって授業に臨んでいるか。

3 担当者からのメッセージ

「英語会話」では、今までに学習した基本的な単語や文法を復習しながら、会話や応対等をベースにして実生活で使えるような表現を中心に学習していきます。卒業後、仕事や海外旅行等で役立つ英語表現を身につけることを目指します。また、英会話を通して、異文化理解につながるような学習も行います。さらに発展的に学習をしたい人は、年に3回実施される実用英語技能検定の受検にチャレンジしてみましよう。

令和5年度 年間学習計画（シラバス）

教 科	農 業	科 目	課題研究	単位数	3単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学年	
教 科 書	なし		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品に関する課題を設定し、課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化・総合化を図る。
- (2) 問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	課題研究活動計画の作成	○各班でテーマを設定し、計画をたて調査研究・実験を行い、プロジェクト学習を行う。
	5	調査・研究	○各班で設定したテーマに沿って調査研究・実験を行い、プロジェクト学習を行う。
	6		
7			
第 2 学 期	9	調査・研究	○各班で設定したテーマに沿って調査研究・実験を行い、プロジェクト学習を行う。
	10	中間発表のためのまとめ	
	11	中間発表	○中間発表会
	12		○模造紙等に研究成果のまとめたポスター発表
第 3 学 期	1	研究成果の発表	○発表・要旨作成・個人論文作成
	2		
	3		
観点別 評価法			○授業・実験等における服装・態度によって関心・意欲・態度を評価します。 ○研究レポートの考察等によって知識・理解を評価します。

3 担当者からのメッセージ

- 1 課題研究では、各班で実習や実験を行います。積極的に自主的に取り組みましょう。
- 2 実験では、細かな観察を行い、一つ一つ記録することを心がけましょう。
- 3 安全に実験・実習をするために常に身の回りの整理・整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 実習や文献調査で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	2 (1)単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学年	
教 科 書	食品製造・食品化学 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品製造に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 加工食品の特性と加工の原理を理解する。
- (3) 加工食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	1 クルミパンの製造 2 グラハムブレッドの製造	○蒸気を使用したクルミパンや、全粒粉を使用したグラハムブレッドの製造法を理解する。
	5	3 農業鑑定学習	○農業鑑定展示品学習にあてるが、後半は揚げパンの1つとしてドーナツの製造を行う。
	6	4 ドーナツの製造	
	7	5 ロールケーキの製造	○ケーキ類の基本としてロールケーキの製造法を理解する。
	第 2 学 期	9	9 ガトーショコラの製造
10		10 ケルダール法	○タンパク質の分析法を身に付ける。
11		11 品質管理 12 農業祭販売準備	○食品業界の進路を考え、企業での品質管理や教育等の実態を理解する。 ○農業祭の準備を行う。
12		13 作業体系	○企業での原料の入荷から製造、出荷までの工程を理解する。
第 3 学 期	1	15 ボイラーの利用	○食品製造機器類でよく使用される機器類を取り上げ、その構造や理論について理解する。特に、ボイラーについては、本校にあるものを題材として、その操作方法等も含め体験的に習得する。
	2		
	3		
観点別 評価法		○実習や実験に取り組む態度、プリントの整理状況、実験報告書の内容等で評価をします。 ○長期休業中に課題を整理した後に、提出します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 実習では、専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 よい製品を製造するという意識を持って取り組みましょう。
- 3 食品を扱います。常に体調を整え、端正な頭髪・服装をすることが衛生を考える上で大切になります。
- 4 安全に作業をするために常に身の回りの整理整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 5 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	食品製造	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	食品製造 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品製造に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 加工食品の特性と加工の原理を理解する。
- (3) 加工食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
1 学 期	4	1 チーズ ・チーズの種類 ・原料	○チーズの種類、原料などについて理解する。
	5	2 カマンベールチーズ	○軟質チーズの代表的なカマンベールチーズについて理解する。
	6	3 バター	○クリームからバターが出来るまでの一連の流れを理解する。
	7	4 練乳・粉乳	○練乳、粉乳について理解する。
2 学 期	9	5 鶏卵の加工 ・鶏卵の加工特性	○鶏卵の乳化性、熱凝固、気泡性などについて理解する。
	10	6 加工卵	○加工卵や割卵検査について理解する。
	11	7 マヨネーズ	○ドレッシング、マヨネーズの製造について理解する。
	12	8 茶	○茶の種類や特性について理解する。
3 学 期	1	9 香辛料について	○香辛料の種類や用途について理解する。
	2		
	3		
観点別 評価法		○実習や実験に取り組む態度、プリントの整理状況、実験報告書の内容等で評価をします。 ○授業中に使用するプリントを整理した後に、ノートに添付したりファイルに綴じたりして提出します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 学習では、専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 食品を扱います。常に体調を整え、端正な頭髪・服装をすることが衛生を考える上で大切になります。
- 3 機械や鋭利な刃物などを扱います。安全に作業をするために、整理整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	食品化学	単位数	1単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	食品化学 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品化学に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 食品の分析方法と原理を理解する。
- (3) 加工食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	食品成分の消化と吸収	○からだの消化器系と消化酵素の働きについて理解する。
	5	1 食品の消化と吸収	○食品やおもな栄養素の消化と吸収の過程を理解する。
		2 消化酵素	
	6	3 栄養素の消化と吸収	
7	4 食品の消化・吸収率		
第2学期	9	食品の衛生検査	○定量・定性分析法の原理や試薬などについて理解する。
	10	1 食品衛生検査の意義	○基本的な分析技術を身に付ける。
		2 異物の検査	○食品検査の意義と必要性について理解する。
	11	3 細菌検査	
12	4 水質の検査		
第3学期	1	5 食品添加物の検査	○食品検査の意義と必要性について理解する。
	2	6 農薬	○衛生管理の意義や必要性について理解する。
		3	
観点別評価法		○期末の考査や小テスト等によって主に食品化学についての知識・理解を評価します。 ○課題・提出物によって主に食品化学についての思考・判断、技能・表現を評価します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 食品化学の学習では、専門用語がたくさん出てきます。語句を理解できるようになりましょう。
- 2 実験では、初めての現象ばかりです。細かな観察を行い、一つ一つ記録することを心がけましょう。
- 3 常に体調を整え、端正な頭髪・服装をすることが衛生を考える上で大切になります。
- 4 安全に実験をするために常に身の回りの整理整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	微生物利用	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	微生物利用 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 微生物とは何かを理解する。
- (2) 発酵食品の製造と微生物の役割を理解する。
- (3) 微生物実験の基本的な操作法を身に付ける。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	3 カビの分離と培養	○微生物に関する実験の基礎・基本について理解する。 ○クエン酸生産かびの、分離・培養方法について理解する。 ○キノコの特長や栽培法について理解する。
	5	(1) クエン酸生産かびの分離と培養	
	6	(2) キノコの栽培	
	7		
第2学期	9	2 食生活と微生物	○発酵と腐敗について学ぶ。 ○発酵食品の製造と微生物の役割を理解する。 ○食中毒や感染症について学ぶ
	10	(1) 発酵と腐敗	
	11	(2) 発酵食品の製造	
	12	(3) 食中毒	
第3学期	1	8 微生物利用の発展	○バイオレメディエーションについて理解する。 ○地球環境保全と微生物について理解する。
	2	(4) 地球環境保全における微生物の利用	
	3		
観点別評価法		○実習や実験に取り組む態度、プリントの整理状況、実験報告書の内容等で評価をします。 ○授業中に使用するプリントを整理した後に、ノートに添付したりファイルに綴じたりして提出します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 学習では、専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 常に体調を整え、端正な頭髪・服装をすることが衛生を考える上で大切になります。
- 3 安全に実験をするために常に身の回りの整理・整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	専攻 食品製造	単位数	4 単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学年	
教 科 書	食品製造 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 加工食品の特性と加工の原理を理解する。
- (2) 発酵食品の製造に必要な知識と技術を理解する。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	1 酒類の製造	○酒税法の観点から酒類の分類を行い、アルコール製造における法的制約も含めて理解する。
	5	2 ぶどう酒 (ワイン)	○ぶどう酒の法的分類と製造方法による分類について理解する。
	6	3 赤ぶどう酒の製造	
	7	4 アルコール発酵製造実験	○アルコール発酵の製造実験について理解する。
第 2 学 期	9	5 食酢の製造 ・原料について	○特に食酢を題材に酢酸菌による酢酸発酵の原理の流れに沿って理解する。
	10	文化祭製造準備	
	11	6 米酢の製造方法	
	12	7 果実酢の製造方法	
第 3 学 期	1	8 酢酸発酵	○食酢を中心とした製造方法を種酢から製品まで流れに沿って学習し、簡単な実験において酢酸発酵がどのように行われているかを理解する。
	2		
	3		
観点別 評価法			○中間と期末の考査や小テスト等によって主に食品化学についての知識・理解を評価します。 ○課題・提出物によって主に食品化学についての思考・判断、技能・表現を評価します。

3 担当者からのメッセージ

- 1 アルコール発酵や酢酸発酵について、発酵過程のアルコール濃度や酢酸濃度を調べながら学習します。
- 2 製造技術だけでなく、法的規制を知っておくことも重要です。その点も考慮して理解していかないと実際には違法行為に当たる場合があるので注意が必要です。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農業	科 目	専攻 食品化学	単位数	4単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学年	
教 科 書	食品化学 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品化学に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 食品の分析方法と原理を理解する。
- (3) 加工食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	○食品添加物の性質	○身近な食品に使われている食品添加物について理解する。
	5	1 保存料	○保存料の特性や種類について理解する。
		2 着色料	○着色料の特性や種類について理解する。
	6	3 甘味料	○甘味料の特性や種類について理解する。
		4 酸化防止剤	○酸化防止剤の特性や種類について理解する。
	7	5 発色剤 6 漂白剤	○発色剤の特性や種類について理解する。 ○漂白剤の特性や種類について理解する。
第 2 学 期	9	7 殺菌料	○殺菌料の特性について理解する。
	10	8 調味料	○調味料の種類や特徴・特性について理解する。
		文化祭製造準備	
	12	10 着香料	○着香料も、多種多様であるため、製造によく使用するものに限定して理解する。
第 3 学 期	1	○主な強化食品	○主な強化食品について学ぶが、最近では、特定保健用食品という項目でいろいろな食品が開発されてあるので、それらも紹介し、身近にある食品で理解を深めていく。
	2		
	3		
観点別 評価法		○中間と期末の考査や小テスト等によって主に食品化学についての知識・理解を評価します。 ○課題・提出物によって主に食品化学についての思考・判断、技能・表現を評価します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 食品化学では、専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 実験では、細かな観察を行い、一つ一つ記録することを心がけましょう。
- 3 安全に実験をするために常に身の回りの整理・整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選 択 農 業 情 報 処 理	単 位 数	2 単 位
学 科	食 品 サ イ エ ン ス 科		学 年	第 3 学 年	
教 科 書	農 業 情 報 処 理 (実 教 出 版)		副 教 材 等	な し	

1 学習の目標

- (1) 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。
- (2) 情報処理に関する知識や技術を習得する。
- (3) 農業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項 目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	1 プレゼンテーションソフトの利用	○プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を使って基本的な操作や特性を理解する。
	5	・基本操作	
	6	・ソフトの活用	
第 2 学 期	9	2 表計算ソフトの応用	○表計算ソフトを用いてグラフの作成・データベースについて理解する。
	10	・グラフ作成	
	11	・データベース	
第 3 学 期	11	3 データベースソフト	○データベースソフトの基本について理解する。
	12		
第 3 学 期	1	3 データベースソフト	○データベースソフトの基本について理解する。
	2		
	3		
観点別 評価法		○中間と期末の考査や実技テスト等によって主に情報処理についての知識・理解を評価します。 ○授業中に行う情報処理検定問題の演習結果を評価します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 「農業情報処理」は、これからの情報化社会において必要不可欠な教科です。前向きな態度で臨み、積極的に課題に挑戦してください。
- 2 「農業情報処理」の評価や成果は皆さんの財産になります。課題への取り組みは常に積極的に行うこと、さらに自己評価を行いながら学習を進めていってください。
- 3 教科書の知識のみに偏らず、実技を通じて問題の発見や解決能力、情報活用能力を高め、実社会で役立つ実践力を身につけることが最も大切です。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 食品化学	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	食品化学 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 食品化学に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 食品の分析方法と原理を理解する。
- (3) 加工食品の品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	○食品分析 1 ペーパークロマトグラフィー	○クロマトグラフィーにより食品の定性分析の方法について理解する。
	5	2 アミノ酸	○アミノ酸の定性分析法について理解する。
	6	3 糖 4 色素	○糖の定性法や定量法について理解する。 ○色素の定性法について理解する。
	7	5 有機酸	○有機酸の定性や滴定法について理解する
	第2学期	9	○原子吸光スペクトル法 1 原理 2 操作方法
10		○食品成分	○身近な食品に含まれる無機質の含量について理解する。
11		1 ナトリウム 2 カリウム 3 マグネシウム	
12		4 鉄 5 カルシウム 6 リン	
第3学期	1	○無機質の定量	○身近な食品に含まれる無機質の定量法について理解する。
	2	1 食塩の定量 2 カルシウムの定量 3 リンの定量	
	3		
観点別評価法		○中間と期末の考査や小テスト等によって主に食品化学についての知識・理解を評価します。 ○課題・提出物によって主に食品化学についての思考・判断、技能・表現を評価します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 学習では、専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 実験では、細かな観察を行い、一つ一つ記録することを心がけましょう。
- 3 安全に実験をするために常に身の回りの整理・整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選択 微生物利用	単位数	2単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学年	
教 科 書	微生物利用 (実教出版)		副教材等	なし	

1 学習の目標

- (1) 微生物とは何かを理解する。
- (2) 発酵食品の製造と微生物の役割について理解する。
- (3) 食中毒や感染症について理解する。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	6 細菌の分離と培養 ・納豆菌の分離と培養	○納豆菌の純粋分離と培養方法を身に付ける。
	5	・乳酸菌の分離と培養	○乳酸菌の純粋分離と培養方法を身に付ける。
	6	・大腸菌群検査	○大腸菌群検査の概要について理解する。
第 2 学 期	9	8 微生物利用の発展	○固定化生体触媒の特徴、バイオリクターの特徴などを理解する。
	10	(1) 微生物の改良による物質生産	○微生物改良の意義、突然変異株による物質生産、遺伝子工学による物質生産について理解する。
	11	(2) 微生物によるバイオマスの有効利用	○バイオマスとその利用システムについて理解する。
	12	(3) 固定化生体触媒を利用した物質生産	
第 3 学 期	1	9 微生物利用の実戦 (3) 抗菌性物質の検索 (4) バイオエタノールの製造	○抗菌性物質の検索方法について理解する。 ○バイオエタノールについて理解する。
観点別 評価法			○実習や実験に取り組む態度、プリントの整理状況、実験報告書の内容等で評価をします。 ○課題・提出物によって、思考・判断、技能・表現を評価します。

3 担当者からのメッセージ

- 1 微生物に関する専門用語がたくさん出てきます。それぞれの語句を理解できるようになりましょう。
- 2 実験では、細かな観察を行い、一つ一つ記録することを心がけましょう。
- 3 安全に実験をするために常に身の回りの整理整頓・清掃・清潔に心がけましょう。
- 4 授業で生じた様々な疑問は、積極的に指導者に質問し、教えてもらいましょう。
- 5 食品産業で働くために必要なことは何かを考えながら学習に取り組みましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選 択 有 機 農 業	単 位 数	2 単 位
学 科	食 品 サ イ エ ン ス 科		学 年	第 3 学 年	
教 科 書	有 機 農 業 (島 原 農 業 高 校 編)		教 材 等	な し	

1 学習の目標

- (1) 有機農業全般に関する基礎的な知識・技術を身につけます。
- (2) 島原半島の土壌の性質を学び、それをもとにした持続的な農業生産につながる土壌改良技術を学びます。
- (3) 総合微生物防除(IPM)を学び、環境負荷の少ない病虫害防除技術を身につけます。

2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	第1章 有機農業の基礎 1 農業の歴史 2 有機農業の歴史 3 有機農業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・有機農業の歴史を踏まえて、その考え方を学習し、これからの環境と調和した農業のあり方を考える。加えて、化学肥料・農薬・雑草の有機農業におけるとらえ方を学ぶ。 ・野菜残さと廃オガから堆肥を作り、発酵温度経過や成分を調べることで品質管理についても学ぶ。太陽熱と微生物の働きによる土壌消毒技術を身につける。 ・有機農業における政策や情勢を学び、有機農産物の位置づけを理解する。
	5	4 有機農業から見た化学肥料 ・農薬・雑草	
	6	実験実習 堆肥作りと堆肥の品質管理 土壌消毒(太陽熱処理)	
	7	第2章 有機農業と農業政策 1 世界の有機農業の動き 2 わが国における 有機農業の動き 3 県の有機農産物に関する政策 4 有機農産物Q&A	
第 2 学 期	9	第3章 有機農業の土づくり 1 土づくりとは 2 土づくりの基本 3 土づくりの具体的方法	<ul style="list-style-type: none"> ・有機肥料を用いた土作りを学び、実際に、有機栽培による秋野菜の栽培に挑戦する。 ・秋野菜の栽培過程で、病虫害対策について学ぶ。 ・収穫物の安全性・栄養価の評価を行い、慣行農産物との比較検討を行う。
	10	4 半島の土壌に応じた土づくり 5 土づくりの実際Q&A	
	11	実験・実習 土壌分析と施肥設計 秋野菜の生産	
	12	生産物の安全性・栄養評価 もみ殻くん炭作り(課外) 第4章 有機農業の病虫害防除 1 病虫害とは 2 病虫害防除の基本 3 病虫害防除の具体的方法 4 島原半島での取り組み	
第 3 学 期	1	第5章 有機農業と環境 1 農業と環境 2 田園環境を守るために	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の多面的機能の観点から、有機農業を捉え直す。また、有機農産物を品質に見合う形で取引するための販路を学ぶ。 ・ぼかし肥の仕込みを行い、自家製有機肥料を作る技術を身につける。
	2	実験実習 ぼかし肥づくり	
	3	第6章 有機農産物の販路 1 生産者から経営者へ 2 地産地消と産直	
観点別 評価法		○授業・実習態度、小テスト、定期考査の成績、課題提出状況、利用技術の習熟度によって評価する。	

3 担当者からのメッセージ

有機農業を通じて、これからの農業経営に必要な、知識・技術・考え方を総合的に学びます。一部の実習は課外で行い、宿題も出ますので、やる気をもって臨んでください。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 アグリビジネス	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第 3 学年	
教科書	107条本 アグリビジネス (島原農業高校)		副教材等	産業財産権標準テキスト(総合編)	

1 学習の目標

- (1) これからの農業経営は、消費者が何を求めているのか知り、農業経営の可能性をさぐる。
国際化に対応した我が国農業のあり方を学ぶ
- (2) 食の安全・安心・農畜産物の新しい販売方法や農業経営の新しい取り組みについて学ぶ。
- (3) スクールマーケットを実施し、農産物販売の仕組みや販売技術の取り組みについて学ぶ。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	第1章 日本農業の現状とアグリビジネス	○農業政策、現状国際化を理解する。
	5	1 日本農業の変化	○現代社会の安全ニーズ、現代人の食生活を理解する。
	6	2 消費者の食に対する要請 3 地域農業の現状 4 アグリビジネスの可能性 中間審査	○高齢化農業社会地域農業の取組みを理解する。
	7	第2章 新しい農畜産物の流通	○アグリビジネスのキーワードを探る。
		1 「有機農業」「環境保全型農業」 2 農産物の流通 期末審査	○有機農産物と環境保全型農業とは ○有機農産物の消費食品のトレーサビリティ、野菜の市場流通
		※月一回のスクールマーケットの開催において 販売実習	○流通に及ぼす要因
	第2学期	9	第3章 マーケティングとは
10		1 マーケティング 2 マーケティング戦略の方法 中間審査	○市場調査の重要性
11		第4章 新しい農業経営形態への取組み	○製品計画、価格の設定と流通、販売促進の目的
12		1 農家の企業化 農業経営の法人化の意義、法人組織の種類 2 農業情報化 収集の方法、IT化の現状、トレーサビリティ 期末審査	○農業情報の収集 ○農業分野におけるIT化
		※スクールマーケットでの販売実習 (2班と接客班に分かれる) ※産業財産権 (特許・商標・意匠権などの知的財産権についても学習していく)	○消費者への安心情報の提示 ※知的財産を活用して、農業における技術・知識の活用・保護について学習し、新たな農業の在り方について学ぶ
第3学期	1	アグリビジネスの実践について	○スクールマーケットにおける反省
	2	まとめ	
	3	学年末審査	○アグリビジネスとは
観点別 評価法	(1) 課題については、指示した教科書の子習 (2) ノート提出で回数・内容について評価します。 (3) 評価については期末審査における平常点に加点します。		

3 担当者からのメッセージ

アグリビジネスは本校の設定科目で、従来の農業経営だけの分野でなく、これからの農業をビジネスとして位置づけ消費者と生産者の視点をより明確にし、更にビジネスシーンをより具体的にイメージしてください。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択	生産管理	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年		
教科書	GAPテキスト (山口TLO)		副教材等	なし		

1 学習の目標

- (1) 農業生産工程管理の内容や考え方について幅広く学習する。
- (2) 農業経営の改善・効率化、持続可能な農業を実施するための知識や技術について体験を通して学ぶ。
- (3) GAPに関する内容を中心とするため、農具や資材の整理整頓を意識し、具現化出来るようにする。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
1 学 期	4	第1 はじめに (7) GAPとは (8) GAPの認証とは (9) GAP学習で身につけたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPについて ・GAP認証について (GAPの規格) ・5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰)、法令遵守 ・記録の習慣と文書化の習慣 ・PDCAサイクルを身につける、グローバルな社会に対応する力
	5	(10) GAPで対象とする範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント力とコミュニケーション力
	6	(11) 危害要因 (12) リスク評価	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産工程、農場 ・危害要因について考える ・リスク評価の方法、重篤性の評価の方法、発生可能性の評価の方法
	7	第2 要点別に見るリスクとその対応 (1) 食品安全	<ul style="list-style-type: none"> ・生物的危険要因 ・物理的危険要因 ・化学的危険要因 ・工程別にみる食品安全における危険要因
	9	(2) 環境保全 (3) 労働安全 (4) 人権・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・生物的要素、物理・化学的要素、省エネ・低酸素社会的要素、農業廃棄物的要素 ・労働安全と危険要因 ・経営における人権と福祉について
	10	第3 農場ごとの目線でみる危険要因 (4) 圃場 (5) 農産物取扱施設・倉庫 (6) トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・(ワーク) 危険要因、リスク評価と対策 ・農場における危険要因 (自校の圃場について考える)
	11	第4 適切な農場運営 (4) 文書化によるマネジメント (5) 記録の大切さ (6) その他のGAPの要点	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の明確化、経営資源の管理、農場のリスク管理 ・食品防御、供給者の管理
2 学 期	12	第7 GAP実践校の事例に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP実践校の事例を参考に、自校のGAPについて考える
	1	第5 アニマルウェルフェアと畜産分野でのリスク対策	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産分野でのリスク対策
	2	第6 その他 (2) 知的財産の管理 GAPの基準書には入っていない大切なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権について ・差別化について
3 学 期	3		
観点別 評価法			<p>【知識・技能】中間と期末の考査や小テスト等によって主にGAP認証についての知識・理解を評価します。</p> <p>【思考・判断・表現】実習を通して、思考・判断、技能・表現を評価します</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】教室授業・農場実習で取り組む姿勢・態度を評価します。</p>

3 担当者からのメッセージ

- 1 「生産工程管理」は、これからの農場経営において重要なGAPについて学ぶ科目です。前向きな態度で臨み、積極的に課題にも挑戦してください。
- 2 「生産工程管理」の評価や成果は皆さんの財産になります。課題への取り組みは常に積極的に行うこと、さらに自己評価を行いながら学習を進めていってください。
- 3 教科書の知識のみに偏らず、実技を通じて問題の発見や解決能力、農具等の整理整頓力を高め、実社会で役立つ実践力を身につけることが最も大切です。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	芸術	科目	選択 保育音楽	単位数	2単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	こどものうた200 (チャイルド本社)		副教材等	なし	

1 学習の目標
保育課程進学に必要な技術および学典を修得する。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	・基礎的な音楽理論	・基礎的な音楽理論の理解をする。
	5		
	6	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ初級レベルの習得をする。
第2学期	7	・実技 歌唱	・正しい音程を習得する
	9	・基礎的な音楽理論	・音楽理論の理解をする。
	10		
11	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ中級レベルの習得する。	
第3学期	12	・実技 弾き歌い	・弾き歌い初級レベルを習得する。
	1	・基礎的な音楽理論	・音楽理論のまとめ
	2		
3	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ上級レベルの習得をする。	
観点別 評価法	3	・実技 弾き歌い	・弾き歌い上級レベルを習得する。
		<input type="checkbox"/> 楽譜を理解し、演奏できるか。 <input type="checkbox"/> 楽譜を理解し、表現できるか。 <input type="checkbox"/> 正しい指使いで演奏できるか。	<input type="checkbox"/> 正しい音程で音階を歌えるか。 <input type="checkbox"/> 正しいリズム、音程で曲を歌えるか。 <input type="checkbox"/> 課題の弾き歌いを演奏できるか。

3 担当者からのメッセージ

保育課程に必要な技術力および学典を習得できるように頑張りましょう。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	国語	科目	選択 国語研究	単位数	1単位
学科	食品サイエンス科		学年	第3学年	
教科書	最新国語便覧 (浜島書店)		副教材等	国語必携ライトパーフェクト演習 (尚文出版)	

1 学習の目標

- (1) 古典の和歌を中心に、同時代の他ジャンルの作品も含めて、日本文学史を体系的に学びます。
- (2) 言語感覚を磨き、歌の意味を深く理解します。また、技巧も学びます。
- (3) 古典に興味を持ち、親しむ態度を養います。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 『万葉集』 第一期	・和歌の音読に慣れる。
	5	第二期	・歌集の特色を理解する。
		第三期	・歌の意味を深く理解する。
		第四期	・的確な表現で和歌の鑑賞文を書く。
	6	東歌・防人歌	・歌人の人間像を調べ、発表する。
	7	2 上代(奈良時代)の文学	・上代の他ジャンル作品を知る。
	第2学期	9	3 『古今和歌集』 第一期
10		第二期	・歌集の特色を理解する。
		第三期	・歌の意味を深く理解する。
		4 『新古今和歌集』 西行	・的確な表現で和歌の鑑賞文を書く。
11		藤原定家 寂連	・歌人の人間像を調べ、発表する。
12	5 中古～中世(平安～鎌倉時代)の文学	・中古～中世の他ジャンルの作品を知る。	
第3学期	1	6 近代短歌	・伝統的和歌と、正岡子規以降の近代短歌を比較し、その違いを味わう。
	2	7 近世～現代(江戸～平成時代)の文学	・近世～現代の他ジャンルの作品を知る。
	3		
観点別 評価法		・タブレット端末や国語便覧を用いて、意欲的に指示された課題に取り組めるかを評価します。 ・主体的に学び、意欲的な態度で授業に臨み、活発な発表が出来るかを評価します。 ・上記の点を踏まえ、定期考査・提出物・授業態度・出席状況などから総合的に評価します。	

3 担当者からのメッセージ

- 1 授業には、必ず国語便覧を用意し、必要に応じてタブレット端末を準備してください。
- 2 声を出してすらすらと音読できるようにしてください。
- 3 分からない漢字や語句は、便覧・タブレットを用いて自分で調べる習慣をつけてください。
- 4 課題は、指示された方法で取り組み、期限を守って提出してください。
- 5 タブレット端末を利用して、言葉や社会的背景について調べ、学習効果を上げてください。

令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	数学	科 目	選択 数学 I	単位数	1 単位
学 科	食品サイエンス科		学 年	第 3 学 年	
教 科 書	最新 数学 I (数研出版) 最新 数学 A (数研出版)	副教材等	パラレルノート数学 I + A (数研出版) 教師作成プリント		

1 学習の目標

1. これまでに学習した数学の理解を深める。
2. 看護学校等の受験対策のために、過去問を学習する。

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学期	4	数学 I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次関数の最大値・最小値を復習する。 ・ 三角比の基本, 正弦定理, 余弦定理, 面積の公式などを復習する。 ・ 場合の数の基本, 樹形図, 順列, 組合せを復習する。 ・ 確率を復習する。
	5	・ 2次関数の復習	
	6	・ 図形と計量の復習	
	7	数学 A ・ 場合の数と確率	
第 2 学期	9	過去問演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習問題を演習する。 ・ 看護学校や医療系専門学校の過去問を演習する。 ・ 授業では扱っていない問題もあるので, その解き方を学ぶ。
	10		
	11		
	12		
第 3 学期	1	復習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで学んだ数学の復習問題を演習する。
観点別 評価法	A (十分満足できる)、B (おおむね満足できる)、C (努力を要する) の3段階で評価する。 1. 知識・技能 (40%) …… 定期考査の基本問題、小テストなどにより評価する。 2. 思考・判断・表現 (40%) …… 定期考査の標準・応用問題、発表などにより評価する。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (20%) …… 授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況などにより評価する。		

3. 成績の算出方法

1. 各学期の成績は、観点別学習状況の評価をもとに算出する。
2. 学年成績は、各学期の成績をもとに算出する。

4 担当者からのメッセージ

1. 授業には、必ず教科書・ノート・問題集を、必要に応じてタブレット端末を準備すること。
2. 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むこと。
3. 復習として、教科書の類題を自分で解いてみること。
4. ノート・問題集は、定期考査後に提出してもらうので、しっかり記入しておくこと。
5. 必要に応じて、タブレット端末を利用して、学習効果を上げる工夫をすること。